

# 幼 兒 の 教 育

昭 和 十 年 六 月

## 汗

子ぎも達の可愛い額に汗が見える。拭いてやろうとしても馳けて行つて仕舞つて、また一ミしきり汗をかいてゐる。砂場では砂の手で日灼けの頬がよごれたまゝになつてゐる。大積木を抱きかゝへて汗を流しながら運んでゐる。角力をこつてゐる子の白地の上着が汗でぐつしよりになつてゐる。

額に汗するこいふ言葉は、大人の實生活に於て、勤勞を禮讚する言葉である。子ぎもの遊戯生活が大人の實生活と同じ貴さをもつてすれば、子ぎもの汗も同じ貴さをもつものである。

汗の出る程遊ばない子、遊べない子、汗の出ないやうに靜かにばかり座らせられてゐる子、汗を出すミ叱られる子、これも禮讚に價する子ぎもの生活こいへない。この子ぎもにも、存分に汗するほどの生活をさせてやらなければならぬ。

それにしても、六月の日盛りを、汗する子ぎも等ミ俱に遊んで下さる先生方の汗は貴い。